# 石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

本年4月、創立30年を迎えます

## 尾池守　石巻専修大学長　年頭の抱負

# 創立30年「復興」から「飛躍」へ

明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 築き上げた地盤 バネに一歩ずつ

東日本大震災から7年、インフラなどの「モノの復興」は進みつつありますが、「心の復興」は緒に就いたばかりです。それでも1989（平成元）年の創立以来30年目を迎える本年は、「復興」という意識を、これまでの7年間で再構築してきた基盤をバネにして「飛躍」へと変えていければと考えています。一足飛びに地域経済が活性化し、本学で学ぶ学生数がV字回復するのが理想ですが、世の中それほど甘くはございません。

創立以来築いてきた地盤に基づいて、一歩ずつ前に進み、一人でも多くの学生に多様な学びの場を提供していければと考えています。

### 夢の実現に向け 多様な学びの力

石巻専修大学では、学部・学科ごとに、体系だった学問分野を学ぶとともに、専門を超えた社会知性を身につけるために、他学科の授業科目を学ぶ学科間ジョイント・プログラムや、経営学部の学生が専修大学経営学部で半年間学ぶ国内留学制度など、多様な学びの道を用意しています。

また、実社会で問われるコミュニケーション能力や体力、組織運営能力といった人間力を育成するために、サークル活動や自発的な研究活動などのサポートにも全力で取り組んでいます。石巻専修大学は「多様な学びの力で、学生一人一人が夢の実現に向けて飛躍できる大学」を目指しています。

### ブランディング事業の目標実現

地方の小規模大学が生き延びるためにはオンリーワンの大学を目指す必要があります。2016（平成28）年度から私立大学研究ブランディング事業として、「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ―草葉起源による内水面養殖業の創出―」を進めています。地域資源の新結合による産業創出を石巻専修大学のブランドとすべく、その第一歩として、震災後未利用地などの活用による魚介類養殖事業の創出を目指しています。ブランディング事業の目標を実現するために、未来の視点から考えて今なすべきことを、全学を挙げて推進していく所存でございます。

今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻（べんたつ）のほどよろしくお願い申し上げます。

## 私立大学研究ブランディング事業

# 大型実験水槽が完成

石巻専修大学が取り組んでいる2016（平成28）年度私立大学研究ブランディング事業「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ―草葉起源による内水面養殖業の創出―」で使用する大型実験水槽が完成した。12月から本格的な運用を開始し、研究の進展が期待される。水槽の概要、今後の取り組みなどを研究代表の高崎みつる理工学部教授（水質生態工学）が紹介する。

完成した大型実験水槽で研究に取り組む高崎教授

このたび、体育館北側のキャンパス内に大型実験水槽が設置された。この水槽は、本事業で最も重要な実験を担う研究装置である。これまで、山形県鶴岡市立小堅小学校跡地のプールを借り受け、養殖水槽に作り替えて予備実験を行ってきたが、今回の完成で研究により弾みがつくと考えている。

大型実験水槽はコンクリート製で、長さ9㍍、幅4㍍、深さ2㍍の本水槽と、長さ4㍍、幅1㍍、深さ2㍍の二つのサブ水槽とで構成されている。さらに、水流・水質制御を可能とする各種ポンプ、システム制御装置などの機能も備えられている。水槽の上には耐水性の保温蓋（ふた）が取り付けられ、外側は室温調整や、風雨、鳥などの侵入を防ぐための大型のパイプハウスで覆われている。

## 自然環境を再現し実験

一般的な養殖水槽との大きな違いは、二層流式にできるという点である。独自の噴流の仕組みと制御システムにより、例えば鉛直方向に下の層が海水、上の層が淡水といった具合で、河口域に近い異なった環境をつくることもできる。海水や淡水の低層・深層・表層等の擬似現場的な条件を創出でき、さまざまな環境を再現しての実験が可能となっている。

従来の養殖システムでは病気、共食いなどさまざまなリスクがつきまとう。実際に魚の棲（す）んでいる場所は気象の変動や食物連鎖など、複雑な要因が関わっていることを考えると、そうした環境を再現して試験ができなければそれらのリスク軽減は見込めない。生態系に多様性を付加し、より自然に近い環境がつくりだせる本学の実験水槽であれば、こうした課題の解決が期待できる。

私立大学研究ブランディング事業の残り期間が1年に迫ってきたことから、今後はこの大型実験水槽を使って、自然環境の一部をそのまま切り取ったような形、いわゆる「メソコズム」をつくり上げる。そこで魚介類の成長や健康条件を健全に保つ環境の最適化、そして生態系の循環からみる真の効率化を念頭に、実証試験を積み重ねていきたい。（高崎みつる）

◇本学の研究ブランディング事業概要　未利用農地等において牧草などを育て、その草葉を起源とした餌をつくり、それらを餌にする小魚、エビ等を利用し、魚の養殖を陸上水槽で行う。経営学や人間学の視点も取り入れて事業化や人材育成につなげ、地域の産業や雇用の創出を視野に入れた事業。

## 就職内定者に聞く

タイトなスケジュールのなか、学業と就職活動を両立し、多くの4年次生が希望の企業から内定を得た。理工学部と経営学部の2人に就活の内容や将来の目標などを語ってもらった。2月号は専門性の高い水族館から内定を得た学生の体験談を掲載する。

### 学んだ知識を生かす

**佐藤　輔（たすく）さん**＝情報電子工学科、秋田県大曲高、東北電力

最初は地元・秋田での就職を考え、長期休暇を利用して採用試験を受けるなど、効率よく活動することを心掛けていました。しかし、両親が背中を押してくれ、選択肢を拡大。講義で学んだ知識を生かせる企業を志望しました。

自分の就職活動を踏まえ、大切だと思ったことが二つあります。準備や行動を早くすることと、友達とのつながりを大切にすることです。活動がうまくいっていない時に友達が内定を獲得したという話が刺激となり、奮起することができました。

就職先の東北電力は東日本大震災以降、原子力発電の問題もあり、風当たりが強くなっています。常に人々の安全を考え、役に立てる社会人を目指します。

### 早めの準備心掛けた

**阿部百花さん**＝経営学科、宮城県石巻市立女子商業高（現石巻市立桜坂高）、仙台銀行

宮城県内の銀行への就職は高校生の頃からの夢でした。教員になりたいと考えたこともありましたが、税務関係のゼミに所属し深く学修したことで、改めて金融機関を志望することになりました。

就活は早めの準備を心掛け、3年次後期からSPIの勉強を始めました。進路支援係を積極的に利用してアドバイスしていただき、指摘されたことを忘れないように家でも面接を練習しました。厳しい選考を乗り切れたのも、納得のいく準備をして臨めたからだと思います。オープンキャンパスで学生スタッフを務め、笑顔や相手の身になって接することの大切さを学びました。お客さまや行内の人から親しまれる社会人になりたいです。

## みやぎふるさとCM大賞

# 舛井（ますい）ゼミ　石巻市代表作品に選出

経営学部の舛井道晴ゼミが制作した石巻市の魅力を伝える30秒のCM作品『いしのまきのうた』が「2017みやぎふるさとCM大賞」（東日本放送主催）の石巻市代表作品に選ばれた。宮城県内の32自治体がエントリーした発表審査会（12月1日、仙台市）で入賞はならなかったものの、石巻市のPRに貢献した。

舛井准教授（左端）とゼミ生たち

舛井ゼミではデジタルメディアを生かした地域情報の発信に取り組んでおり、石巻市代表作品に選ばれるのは4年連続。

今年の作品は本学、石巻漁港、石巻復興マルシェなど5カ所で撮影し、学生、子ども、市民らが一つの歌をリレー形式で歌いつなぐもので、石巻の人の魅力を表現した。

駒込美侑（みゆう）さん（経営3・岩手県北上翔南高）は「昨年の課題だった『30秒でどうまとめるか』を考えて制作した。シンガー・ソングライターの萌江さんの曲が石巻の人たちの笑顔によく合っており、良い作品になった。多くの方に見ていただきたい」と話した。作品は本学WEBサイト「経営学部」ページで公開中。